

盛岡
ミニ教宣

盛岡建労

発行所
盛岡建設労働組合
教宣部
近藤貴志

ホテルパールシティ盛岡



観光用の入り口の反対側が本来の玄関になる

わが四畳半

明治十九年二月二十日に南岩手郡日戸村（現在の盛岡市日戸）の常光寺に生まれた、本名石川一こと「石川啄木」は郷村の小学校では神童と言われ首席で卒業、盛岡に出て盛

岡高等小学校入学しました。明治三十一年四月、盛岡中学校に入学、生徒百二十八人中成績は十番と伝えられていました。

先輩の金田一京助の薦めで雑誌「明星」を愛読し、その影響を受けて三十四年十二月に「白羊会詠草」二十五首を「翠江」の筆名で岩手日報に掲載したのが啄木の短歌が活字になった最初の作品でした。明治三十八年五月三日、処女詩集「あこがれ」を出版して天才少年詩人と称えられました。

母と妹が住むことになりました。襖で仕切っている一軒家に啄木の家族と他の家族が同居していたので、新婚には辛すぎると言う事で、3週間で加賀野に引越したとのことですが、加賀野の家の場所も分からなくなっているそうです。今、啄木縁の場所が有るのは、誕生の場所と、新婚の家の二カ所だけの事でした。

数多くの詩を作った啄木ですが、二十七歳の若さで永眠しました。盛岡市内を歩いて廻る事はなかなか無く、初めて入った場所なので、楽しく取材出来ました。管理されていた方も優しく説明して下さい、とてもわかりやすかったです。

今回初めてミニ教宣に参加しました。会場付近を散策しながら、自分で取材先を見つけ、記事を書く等、初めての事だらけで楽しく勉強させていただきました。

編集後記



結婚時3週間住んだ四畳半の部屋

盛岡
ミニ教宣

盛岡建労

発行所
盛岡建設労働組合
教宣部
田村正司

ホテルパールシティ盛岡



日影門緑地

先日、日影門緑地の側で仕事をし、三戸町の時鐘をみてどうしてここが三戸なのかと疑問になり調べてみた。盛岡城は三戸から不

来方に居城の移転を盛岡藩初代藩主が決定し、二代藩主が築城を始めた。盛岡城下の草創期には三戸から移って来た人々が住み、三戸町

と呼ばれていた時代もあった。四代藩主南部重信の時代により小泉仁左衛門願により小泉仁左衛門清則によって延宝七年

盛岡市文化財 三戸町の時鐘

十一月に铸造され、明治八年に内丸の県庁前に移され明治四十二年には現在の桜山神社前の鶴ヶ池側に移転設置された。昭和二十八年頃まで使用されており約二八〇年の間盛岡の人たちに時刻を知らせ親しまれてきた。現在盛岡市の文化財に指定されている。



移転した時鐘

11月11日、12日盛岡ミニ教宣を盛岡市内で行った。今回は天気にも恵まれた。前から気になっていた所に取材、結構歩いた、でも楽しい勉強会だった。

編集後記

盛岡
ミニ教宣

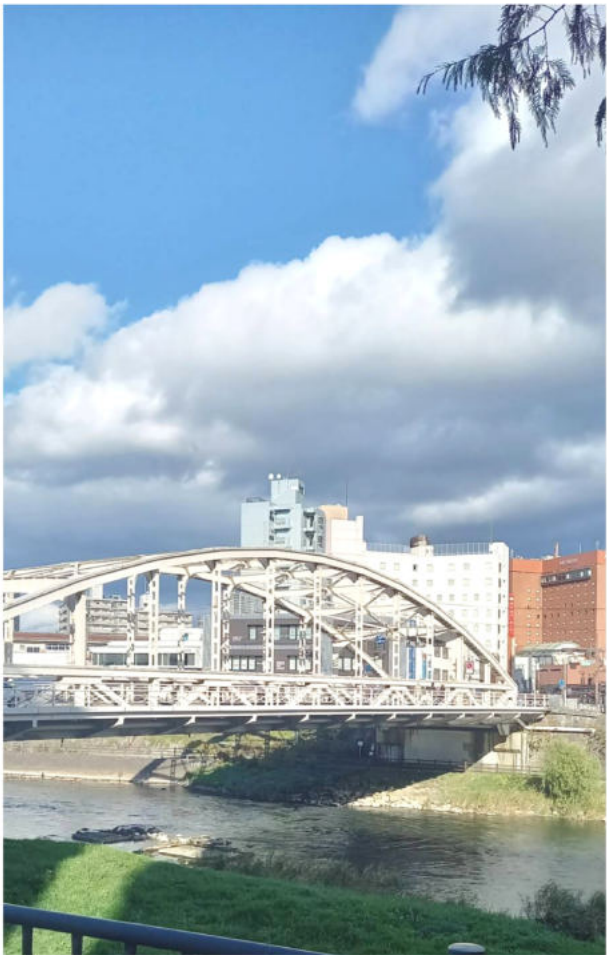
盛岡建労

発行所
盛岡建設労働組合
教宣部
齊藤勝宏

ホテルシティ盛岡



「みちのく盛岡心のふるさと」遊歩道付近



北上川にかかる開運橋

北上川は、岩手県中央部を北から南に流れ、宮城県東部の石巻市で追波湾に注ぐ一級河川。流路延長249km、流域面積1万150km²は東北地方の河川の中では最大で日本全国では4番目の規模です。北上川といえば、旧松尾鉱山の坑排水により汚染され「死んだ川」と呼ばれていました。今では、旧松尾鉱山新中和処理施設の建設、稼働により、清らかな流れを取り戻し、冬には白鳥が飛来し秋には鮭が遡上する川になりました。1人で川原を散歩するのもいいし、友達同士、お子さんと仲良く散歩するのもいいです。

3年ぶりのミニ教宣。カメラの新しい使い方の発見があり、記事もいつもよりはスムーズに書けたような気がする。

編集後記

甦った母なる川

盛岡
ミニ教宣

盛岡建労

発行所
盛岡建設労働組合
教宣部
浅沼盛一

ホテルシティ盛岡



啄木が書いた「もりおか」でお出迎え



1890年（明治23年）11月1日に日本鉄道として開業した盛岡駅。その後、東北の玄関口として東北新幹線、秋田新幹線、北海道新幹線などが利用されています。東京まで2時間15分、新函館北斗まで1時間

50分とアクセスが良好。そして駅北側から新幹線の線路が県のシンボルでもある岩手山に向かってまっすぐに伸びています。駅構内には盛岡ゆかりで五千円券の肖像としても知られる新渡戸稲造の銅像、歌集「一握の砂」で知られる石川啄木の歌碑などがあり、古くから城下町として栄えた盛岡市で数々の文化人が活躍しました。アメリカのニューヨーク・タイムズが2023年に行くべき52か所に、ロンドンに続く2番目に盛岡市が選ばれました。「歩いて回れる宝石のスポット」と



盛岡駅発岩手山へまっしぐら

編集後記

10年ぶりのミニ教宣を楽しみました。普段見慣れていたり、知っていると思いついていたり、知らないことが多かったり、分かっていないことが多いことに気付かされました。さらに新しい発見もありました。盛岡を見直す良いきっかけになったかもしれません。

高評価され、東京から新幹線で数時間で行ける便利さ、大正時代に建てられた和洋折衷の建築美の建造物、盛岡城跡公園、「MAGASAWA COFFEE」 「東家」などが紹介されています。ますます、盛岡がおすすめです。この駅からまた新しい旅が始まるかもしれません。

盛岡
ミニ教宣

盛岡建労

発行所
盛岡建設労働組合
教宣部
渡辺悠太

ホテルパールシティ盛岡



啄木新婚の家

新郎のいない 結婚式

初めて盛岡市中央通にある「石川啄木新婚の家」に行き、27年という短すぎる生涯で多くの作品を執筆し、約150年前に生きていた偉人石川啄木を改めて知ることができ、少し近く感じる事ができました。この建物は、藩政末期に建てられた木造平屋建ての武家屋敷で、昭和59年7月に盛岡市

指定有形文化財に指定されています。明治38年5月30日、こちらの一室で新郎石川啄木、妻節子が結婚式を挙げました。しかし、啄木は東京からの帰路の途中、仙台に立ち寄り、前日の5月29日まで遊んでいたため、この結婚式に間に合いませんでした。それにより、新郎のいない奇妙な結婚式になりました。そして、この家屋の八畳間、四畳半間に啄木と節子、父母、妹で3週間暮らしました。その後、啄木は現在の盛岡市加賀



当時の生活必需品

野一丁目に移り住みました。その頃、岩手日報に「閑天地」と題する随筆を連載し、わずかな原稿料を家計の足しにしていました。その後、出生地である現在の盛岡市渋民に移り住み、母校渋民尋常小学校の代用教員として就職しました。当時、啄木は「日本一の代用教員」を目指し、情熱をもって職を全うしていましたが、教育刷新のストライキ事件により免職になり、報われる事はありませんでした。

編集後記
今回、はじめてミニ教宣に参加しました。写真の撮り方や、記事の読み方など勉強になる事ばかりでした。そして取材をする中で、盛岡の中心部周辺の歴史を改めて知る機会にもなりました。次回は、もっと知らない場所取材をしてみたいと思います。